

Trial & Error

創刊号

'80.12.15



「発行にあたって」JVC Co-ordinator

税田 芳三

「難民」という言葉を、日常生活の中で耳にするようになってから久しい。一頃新聞誌上を賑わせた難民問題も、人々の関心が薄らぐにつれ、再び元の殻の中に納まろうとしているように思われます。しかし現地では未だに多くのボランティア達が日夜活躍しており、J.V.Cも漸く信頼のおける民間救援団体として認めつつあります。息の永い救援活動を続けてゆくために、是非とも皆様方のご理解を頂きたい、ここに機関誌を発行して、現地からの生の声をお届けする次第です。どうぞ宜しくご支援のほどをお願い申し上げます。

海外ボランティアのための情報誌

**JAPANESE
VOLUNTEER
CENTER**

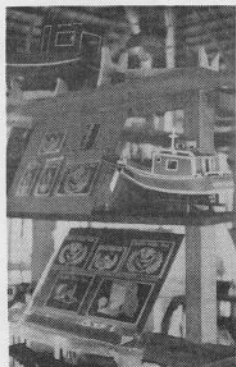
Japanese Volunteer Center とは

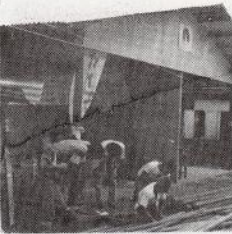
J.V.Cは、本年2月バンコクに設けられたインドシナ難民のための民間救援団体です。外務省その他の民間救援団体から支援を受けながら、タイ国内の難民キャンプとスラム街で、現在約50名の若者と在泰主婦39名が救援活動に携わっています。4月には、CCSDPT（タイ国に於ける避難民救援連絡委員

会）に登録され、正式な民間救援団体として認められました。又夏には、日本から89名ものボランティアを派遣し、プレム首相から感謝状を戴くなど、タイ政府及びUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）からもその着実な救援活動は高く評価されています。

活動をふりかえって

日本での活動経過		タイでの活動経過	
1980		1980	
		2月	在タイ邦人らを中心としてJVC（日本奉仕センター）設立（代表川口昌宏、事務局長星野昌子）
		3月	ノンカーイ学校建設準備、火災見舞 ウボン自動車修理教修所準備 東レ労組よりの衣料仕分 カンボジア国境付近サケオ、カオイダン、ソ ンクラー等物資輸送並びに井戸掘りの調査
		4月	ランシットトラジットセンターで教育レクリ エーション活動開始 クロントイスラムでのどぶ板補修工事開始
5月	夏期プロジェクト実行委員会がイ難連により承認され発足 代々木オリンピック記念青少年総合センター（OMYC）内にある一室を貸りて活動開始	5月	難民の手工芸品買付けプロジェクト開始 ウボン自動車修理教修所完成
6月	初の街頭キャンペーン（立川、福生駅前） 祈りの日チャリティコンサート（福生市民会館、出演石田桃子他） 夏期プロジェクト派遣ボランティア募集開始（～8/9まで） 「インドシナ難民は今」（聖心女子大アセンブリホール、講演者JVC事務局長星野昌子、全社協事務局長見坊和雄、日赤外事部第2課長近衛忠輝）	6月	ウボン自動車修理教修所、日本語学校開講、ノンカイ日本語学校建設開始、ソンクラー手工芸品製作・公衆衛生プロジェクト開始



7月 8月 10月	第1回オリエンテーション(タイ語学習会、フォークダンス、報告会等)ー(11/9まで、毎日曜日)日赤による救急法講習会 街頭キャンペーン(渋谷、新宿) チャリティーコンサート(聖心女子大出演石田桃子&コズミックサン中山ラビ他) 夏期プロジェクト派遣ボランティア募集締切 「子供の瞳が語るインドシナ」難民の子供が描いた絵の展覧会(新宿紀国屋ホール) 「難民問題はファッションだったのかー難民キャンプより帰って」 夏期プロジェクト報告会(上智大学講演者UNHCR事務官白石理、JVC前代表川口昌宏他) 夏期プロジェクト実行委員会をJVC・OB会に発展解消  	7月 8月 10月 カオイダン教育レクリエーションランシット Lao English Hand Book カンボジア国境での補助食糧配給開始 NAPプロジェクト(タイの僻地校へ本を配布) ブリラム食糧配給と小学校建設 パナニコム教育レクリエーション活動開始  
--------------------------------	--	---

設立の趣旨

1975年のインドシナ三国全面共産化以来、タイ国の抱える難民は現在、70万人に達すると云われ、世界の耳目を集める中で、従来日本は難民対策には、無関心、受け入れ拒否、金で事を済ませようとする等、とかく非難をされてきた。

しかし、出足が遅れたとはいえ、医療協力、キャンプへの生活用水確保のための技術協力等が政府ベースで本格的に開始されるに至り、今や難民問題に最も真剣に取り組み、且つ継続的援助を目指す国になろうとしている。

又、日本国内では一般の人々のこの問題に対する関心が高まり、奉仕活動希望者が多数生まれ、多額の寄付金も集められつつある。

ところが、現状では、日本は欧米諸国のキリスト教団体に相当する奉仕のための伝統的組織がないため、こうした活動や援助金品と受贈者を繋ぐパイプがなく、奉仕者がキャンプ周辺を彷徨せざるを得な

かったり、又せっかくの善意も行先が分らず、日本国を離れられずにいる状況である。

当センターは上記の事情に基づき、日本国民の善意が一日も早く、信頼できる方法で、有効に活かされることを願いつつ、差し迫った必要に応えるべく設立されるものである。

又、当センターは難民ばかりでなく、人道的立場に立って多大な犠牲を払いつつ、これらの難民を抱えているタイ国にも、常に理解をもって当ろうとする。従って難民には不適當と思われる寄贈品又は余剰の物品、奉仕については寄贈者の同意を得て、タイ国内の貧困者、キャンプ付近のタイ住民、又は福祉施設等に振り向けることもある。

(尚、従来から日本人会婦人部がチャリティー活動を行なっているが、このセンターは日本人会の組織には含まれない。

編集長からの提言

河井 淳 一

J.V.Cはいま、Tokyo Liaison Office を開設し、新たな第一歩を歩み出そうとしている。少ない資金とメンバーのほとんどが学生ボランティアであるという困難な条件下にもかかわらず、事務能力を拡充しようと努力しているのは、何よりも現地の最前線で、汗と泥にまみれて連日苦闘を続けている友たちのために、少しでも大きなバックアップをしようという気持ちに他ならない。友たちの後に続く人材を広く求め、また、資金を供給するために、日本国内において難民問題がより深く理解されることをわれわれは願っている。

そのために、J.V.C. Tokyo Liaison Office の最初の仕事として、機関誌を創刊することとなった。

具体的な編集方針として、第一に、現地の最新情報をわかり易く伝える。折角、貴重な体験を得ながら、日本に帰って、時と共に難民問題に対する意識が薄らいでいる人たちが、現地からの切実な声を聴くことによって、新たな行動を起こすことを期待したい。また、難民問題に関心を持ちながら、行動に移すきっかけをつかみかねている人たちに対しても、同様のことを期待したい。現地では、何よりも後に続く人材を求めている。

第二の編集方針として、南北問題に目を向ける。現地に行かれた方は、おそらく、何故このような悲惨な状況が生まれるのか、何故このような貧しさが存在するのかといった疑問を持たれたことと思う。難民問題は政治問題である。しかし、それだけでは本質はつかめない。難民という犠牲者を生み出す遠因は、極端な豊かさと貧しさが世界の中に並存するという経済上の大きなアンバランス、南北問題にある。一方では、恵まれ過ぎともいふべき物質的豊かさの中で生活している人々がいるのに対し、他方では、一滴の水、一粒の米がないために死んでいく人々がいる。この南と北の格差の是正こそは、現在人類が直面している最重要課題である。



しかしながら、最も豊かな国の一つである日本に生まれ育った人々の中で、この南北問題の実態を肌で感じられる人々は、ごくわずかにすぎない。現地で活動されてきた人たちは、その貴重な日本人の一人である。また、現地にいったことのない人たちが、この機関誌を通じて少しでも難民問題や南北問題に関心を持つようになり、何か行動してみたいと感じてくださるのなら、これほど心強いことはない。

私が考えるに、ボランティアの行動原理とは、「無知から行動へ、思考からさらに新たな行動へ」といったものではないだろうか。つまり、最初は何も知らなくても素朴な善意

から出発し、行動の中で根源にある問題に直面し、それを考え、そして再び行動を起こす。新たな疑問は行動の中から生まれ、行動の中で答えを求める。こういった常に模索を続ける姿勢こそが大切だと考え、この

機関誌をTrial & Error（試行錯誤）と名付けた。

共に考え、共に行動しようではないか。一人の力はどんなに小さくとも、ひとたび行動を起こせば、その輪は次第に広がっていき、未来に一条の光が射すであろう。

勇気をもって、若者らしい卒直な意見を吐き、大胆な行動力を示そう。21世紀の地球を背負うのは、若い時代に豊かな行動経験を積んだ責任と自覚ある人間なのである。

最後に編集責任者として、読者諸氏に次のことをお願いしたい。

1. 文面の裏に流れる最前線で活躍中のボランティアの汗を感じとってほしい。
2. 難民問題、南北問題の解決方法を、共に英知を傾けて探求してほしい。
3. 若々しい行動を起こすために、この機関誌を踏み台としてほしい。

広く諸氏の積極的な投稿、研究成果の発表を求めるものである。

タイ概況報告

J.V.C 事務局長 星野昌子

先月、ニューヨークで行なわれた国連総会で、ヘンサムリン政権のカンボジア代表権が否決された。この外交的敗北を覆そうとベトナムが新たな侵入を企てるのではないかとタイ陸軍が懸念している旨が紙面に大きく取り上げられたが、しかしながら事実上は、内輪もめ程度にすぎないようである。

来年早々に提案されている次回国連総会では、ASEAN会議での決議の中の三つの重要点

- 1) 外国勢力のカンボジアからの撤退
- 2) カンボジア問題の政治的解決の必要性
- 3) 関係当事国すべてによる会議の開催が論議される予定である。

◆ ◆ ◆ ◆

タイ、カンボジア国境から年末までに全面撤退を伝えられたICRC（国際赤十字）が方針を変更して来年6月まで4チームを残すことになったが、JCRC（日本赤十字）はこの中に含まれず、タイ国内での難民救援活動を間もなく終了する。

カンボジアに対するタイ国内からの援助の縮小、また次第にブノンベン側からの援助に切り替えられていく状況に反発してか、このところ国連機関や救援関係者に対するタイ政府の関税（救援物資の流出）、労働許可証取得の義務づけ、出国にあたっての納税チェック等各方面での締めつけが目立つ。このように、昨春に見られた救援関係者への例外的緩和策は既に見られず、両者の蜜月は終わった。また、キャンプ内においても難民に対する外国語教育を禁止し、外国人救援関係者と難民の意志伝達にもタイ語使用、タイ人通訳の起用を進める等の動きも見られる。これらは今後、JVCの活動にも困難さを加えることになると思われる。

◆ ◆

こうした厳しい条件下で、設立後、9ヶ月にすぎないJVCの活動が、PR活動の乏しさを認められ始め、従来のようにJVCに寄

せられた救援資金のみに頼るのではなく、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）側から、UNHCRの資金を使って活動するように、種々提案依頼をされる傾向が出てきたことはボランティアの絶ゆまぬ努力の賜物であろう。

例を挙げると、16日より義田ボランティアがカオイダン難民キャンプの井戸堀りの技術指導に入った他、ウボンキャンプの自動車修理教習所がタイ国内における全キャンプの職業訓練プログラムの中でも最も組織化されており、カンボジア難民が帰国した場合、母国の再建に役立つに最適な技術レベルであることが指摘され、来年度にはカンブット、カオイダン両キャンプで同様のプログラムを開始するよう依頼されている。また、ソンクラーに於けるサニテーション活動（パキュームカーやゴミ回収などの衛生活動）も評価され、カオイダンに於いても活動を依頼される模様である。

◆ ◆ ◆

JVCの内部としては現場と事務所とが分離せず、各人が現場—事務所—日本（人的、物的活動の供給源）を全体的にふまえ、深い理解を持ちながら各担当の活動を行うようにするため、現場のリーダーに他キャンプの活動の視察や事務所の仕事への関与をさせたり、また逆に、事務局員を現場視察に送るなどの動きが進められている。



難民たちの住む家（カオイダン）

JVCプロジェクト状況

11月20日現在

キャンプ名	管轄	進行状況	活動内容	活動中のボランティア氏名
1.ウボン	内務省	●	自動車修理教習所(教官8名、生徒130名)	* 熊岡路矢 金子一弘
		●	英語、ラオス語、日本語各教室運営と私塾援助	山下夏美 瀬端さと子
		●	ハンディクラフト(購入、販売)	大野直樹
		●	食料の配給	マリー・マルティーズ・カマル
		○	補助栄養食の供給	
		○	タイプ、織布、手工芸などの訓練校	
2.ノンカーイ	内務省	●	レクリエーション活動(音楽、絵画、体育等)	* 森 豊文 戸田耐子
		●	日本語教室	久保貴弘 平賀増美
				高橋玲子
3.ソクラー	内務省	●	サニテーション活動(バキュームカー、ゴミ回収等)	* 浜口功雄 古賀道弘
		◎	雨水タンク改良工事、シャワールーム設置	原田芙蓉 浅野 章
		●	排水溝工事	河合義雄 山隈 悟
		●	ハンディクラフト(材料供給、購入、販売)	木原文夫 小野ひろ子
		●	医療活動(医院勤務、バラック回り)	ワニット
		●	アンケート調査(生活実態、医療状況)	
		◎	掲示板製作	
		●	緑化計画(花壇造設、その他)	
		●	タイ農村への古着配布	
4.アランヤプラテート	最高司令部	●	国境周辺の難民村、農村への物資輸送 (衣類、日用品、学用品など)	* 西崎健司 田島 誠
		●	アメリカ民間救援団体CAREとの活動提携	村山康弘 伊波美和子
5.カオイダン	最高司令部	●	井戸堀りの技術指導	玉那覇陽子 河西マリ
		○	自動車修理教習所	義田健一
6.パナニコム	最高司令部	●	レクリエーション活動(体育、ダンス、工作)	* 相澤秀夫 小泉典江
		○	サニテーション活動	鈴木ミナミ 高橋知子
				川嶋和弘
7.クロントゥーイスラム		●	通路補修	* 福村州馬 若林昌弘
		●	学校の環境整備	小野博志 皆川伸彦
		●	サッカーグラウンドの建設(スラムの子供たちのために)	日高 一
		●	洋裁学校(ブラティープ財団が運営)への協力	
			生地提供、デザインのアドバイス、販売	
		◎	ペンキ塗り、Tシャツ作製	
		●	ブラティープ財団への奨学金援助	
8.プラーム県13ヶ村		○	遊園地建設	
9.バンコク事務所		●	ハンディクラフトの購入、販売	* 星野昌子 山本敏幸
		●	衣類の整理分配	大石由美子
				主婦グループ

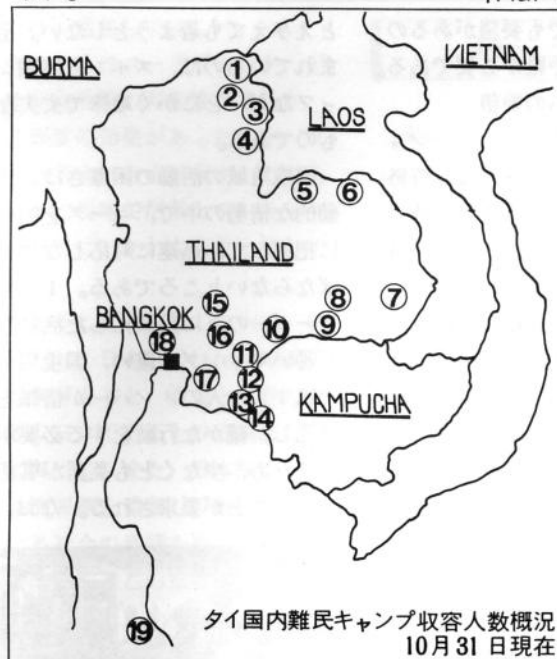
進行状況の区分

●実施中

○計画中

●不定期に活動中

◎完了



	キャンプ場	国別	今月	先月
1	Chieng Khong	L	5,607	5,854
2	Chieng Kham	L	3,498	2,028
3	Ban Nam Yao	L	10,053	11,765
4	Sob Tuang	L	8,363	8,584
5	Ban Vinai	L	29,720	32,808
6	Nong Khai	L	25,353	30,249
7	Ubol	L	19,130	20,820
8	Lumpak	K	2,530	3,271
9	Karbcherng	K	2,429	—
10	Khao I Dang	K	—	77,663
11	Aranyaprathet	K	2,347	2,392
12	Kamput	K	15,896	15,896
13	Laem Sing	V	681	1,580
14	Mai Rut	K	13,681	13,681
15	Si Khiu	L.V	2,320	2,744
16	Sa Kaeo	K	—	32,412
17	Panat Nikhom	L.K.V	13,000	15,000
18	Ransit	L.K.V	4,994	—
19	Song Khla	V	2,860	2,932

収容されている難民の国別

L…ラオス, K…カンボジア, V…ベトナム

※「—」は情報未入

各キャンプ最新情報

ウ ボ ン

熊岡路矢

1) オートリペアセンターにおいて、消耗品以外の要望品目として、生徒から教材用の中古バイクを2台とバイクのエンジンミッションの単体1個が求められている。

ボランティアとして自動車整備工の資格者1人を求めている。

2) 妊産婦、乳幼児、病人への補助栄養食の供給活動を開始することを計画中。補助栄養食の供給は、今までアメリカの民間救援団体Food for the Hungryが行ってきたが、現在活動を縮小しつつあるため、JVCは今後この活動を補充していく予定。

したがって、栄養士もしくは看護婦の資格者1～2名を必要としている。

3) キャンプの難民自治会からタイプ学校を開設して欲しいという依頼があり、JVCとしても目下準備中。また、織布及びハンディ

クラフトの訓練校も計画中。

近いうちに日本から中古タイプが井戸堀り機械やロッカーなどといっしょにアメリカ海軍の協力によって届けられる予定。また、織布の訓練校の構想は、技術を身につけると同時に民族の伝統文化を保存しようという願いが込められている。

4) キャンプ内の子供達の内、2割程が近くのタイの小学校に通っている。キャンプ内でも小規模の私塾による教育活動が行われており、JVCは援助を続けている。学校に行っていない子供達は、水汲みや親が小さな畑を耕作していればその手伝いをしたり、一日中遊んでいたりとしている。

ノ ン カ ー イ

森 豊 文

10月20日現在、当キャンプには25,353人のラオス人が生活してい

る。10月に入って17日までに1,129人が新しくキャンプ入りした。過去数ヶ月では、5、6月に月平均約4,000人、7～9月に月平均約1,000人がキャンプに入ってきている。一方第三国に定住した人は、5～8月で月平均約2,000人、9月は4,500人であった。

ソ ン ク ラ ー

浜 口 功 雄



キャンプ風景

10月に入り、キャンプ入りする難民の数は増加傾向にある。また、南タイ地方は10月中旬以降雨期に入り、屋外での作業に支障をきたすようになった。現在朝7:30～夕5:00の活動を続けている。

新規収容者の増加は季節風の風

向きの関係による。ただ、月平均1,000人程の難民が出国先が決定してトランジェットセンターに移るという新陳代謝の激しさのため、キャンプの収容総数はさほど変わらず逆に一時的には減少することもある。ソクラーキャンプにいる難民はすべてベトナムからのボートピープルで、海岸沿いに点在する一時収容所に辿り着いた後、登録を受けてからキャンプに収容される。短い人で3ヶ月、長い人で1～2年、平均6ヶ月程で出国が許される。



コ・サムイ島にたどりついた難民船

1) 排水溝工事プロジェクトは、タイ国内では資材が不足しており、コンクリート土管は必要量を手に入できなかった為ヒューム管を使用、10月25日現在100 m第1期工事分の $\frac{1}{6}$ を完了している。

2) 医療活動としてキャンプ内医院勤務及び各バラック回りを行っている。キャンプ内で多い病気は皮膚病と流行性の眼病。眼病は、ドクターの指示で眼薬200本を配布した結果かなりの効果をあげた。

3) アンケート調査

難民の生活、医療状況、要望を調査するためベトナム人ドクターとキャンプ自治会の協力を得て、9月中旬から実施した。現在分析中。

4) タイ農村への古着配布

10月16日に届いた古着は、ソクラー県庁で下調べしたのち紹介状をいただき、22日にラヌン近くの漁村に配布した。現在、キャンプに新たな難民が収容されつつあ

り、また各農村でも要望があるので、今後も古着や靴が必要である。

※キャンプからの要望

○子供達に教育レクリエーション活動を行なうため、保母の資格者またはそれに準ずる能力を持った人が必要。ただし、2～3ヶ月以上は活動していただきたい。

○関係機関や他の救援団体と交渉ができる程の英語力を有し、情報を収集することのできる人材が一人欲しい。

○日本からボランティアとして来る人達は、事前に学習会等を行ってボランティアとしての自覚を確固たるものにし、語学力などを高めてから来るように心掛けて欲しい。できれば日本国内でしばらくボランティアの経験を積んでから来ることが望ましい。

ボランティア インタビュー

“CARE”での活動経験者

田島 誠



JVCボランティアホーム (アランヤプラテート)

国境周辺の情勢は現在一応安定しており、10月31日にはノンサメットの難民村で祭りが行なわれ、難民達は一時の安息を見出ししていた。ただ、医者が不足しているため、病人が出た場合は不安を隠しきれない。カンボジア国内の食糧事情は予想以上にひどいように思われる。灌漑施設が破壊されたため、復興に3年はかかる見込みである。

難民に送ってくださる古着の中には不適当なものが多い。たとえば、スカートやブラウスなどはた

とえ与えても着ようとししない。望まれているのは、ズボンと開襟シャツなど、とにかく地味で丈夫なものである。

国境地域の活動の困難さは、流動的な情勢の中で、ニーズを的確に把握して、迅速に対応しなければならないところである。1人のリーダーの下に組織化した活動をし易いキャンプと違い、国境周辺では1人1人のメンバーが情報を処理し、確かな行動をする必要があるため、少なくとも英語が堪能であることが要求される。なお、



日本政府派遣医療団のいる病棟
風景(カオイダン)

これらのリーダーとして英語、フランス語、タイ語、クメール語、ラオ語、ベトナム語等の諸外国語を駆使して関係機関との折衝にあたる優秀な人材が不足している。

また、日本の短期ボランティアが問題とされているが、やはり数ヶ月は活動を継続し、しかも活動能力を有することが必要だと考える。ただ、欧米のボランティア達の多くは給与を受け、しかも帰国後プラスになる面が多いという打算的側面があるのに比べて、日本人ボランティアには純粋さがあるように感じられる点がせめてもの救いである。

“アランヤプラテート”リーダー

西崎 健司

JVCは今度、東京にLiaison Office を開設することになったと聞いたが、民間救援機関はあくまで現地が行動の主体であるとい

うことに留意してほしい。

どのようなニーズがあるか、どのような活動の可能性があるか、どの程度の効果があったのか、反省、改善すべき点は何か、これらはすべて現地で活動しているボランティアにしかわからないことである。

以上のことを確認した上で、私達にとって日本のOfficeの占める位置を考えると、資金と人材の供給源は日本であるという重要な事実に気づく。また、日本国内における情報網を整備し、難民問題に対する社会の意識を高めることも重要である。この重要性は、発展途上国の貧しさを生み出しているのは日本など先進諸国に原因があるということを考えれば、言うまでもないであろう。

私の期待することは、できるだけ多くの若者が現地に来て、何かをつかみ、さらに日本に帰ってから有意義な活動をしてくれることである。現場は、若者が自らを鍛える修業の場である。したがって、既成のプロジェクトに安易にもたれかかるような姿勢は慎み、自立的かつ積極的な参加を心がけてほしい。

J.V.Cの活動に対する今後の評価は、どのような人がJ.V.Cから育っていったかによって測られることになろう。

(11.17.アランヤプラテート
ボランティアハウスにてJ.K)



カンボジア国内からユニセフの配給米を取りに来た牛車の群

パナッニコム

相 沢 秀 夫

現在レクリエーション活動が中心。近いうちにトランジットセンターがオープンして、これから収容される難民数は増加する見込み。J.V.Cとしては今後レクリエーション活動を続けるにあたって、難民の人たちの中から協力者を募集し、給与を支払って参加してもらうようにしたい。これは言語、文化の共通性を生かすという趣旨である。したがって今後、日本人ボランティアには、ダンス、体操などレクリエーションリーダーとしての能力のあることが望まれる。



いよいよ出国間近

クロントゥーイ・スラム

福 村 州 馬

スラムには35,000～40,000人が住んでおり、一家平均月収は、B3,000以下で、しかも行政による福祉政策はほとんど皆無である。現在我々の活動は、全体の3分の1ほどしか手が回っていない。

又、J.V.Cとしてはスラム内にある小学校の校長プラティープ女史の運営する福祉団体「プラティープ」に協力している。

クロントゥーイでは、3ヶ月以上の期間音楽や体育を教えられる人材を求めている。



学校が終って

●古着を送ろう ちょっと待って!! バンコク在住

主婦ボランティア衣料班より

バンコクに住んでいて難民の悲惨さを目のあたりに見ながら、なんとかしなければと立ち上がり、わずかな力を持ち集まったのが、J.V.C主婦ボランティアです。私達には子供もあり、慣れない海外生活でもあり、全てを投じてボランティア活動が出来ないのが苦しみの一つではありますが、それでも出来る限りをと思い、一生懸命やっています。キャンプに出向き、何日も何ヶ月も活動できない条件が色々あるものですから、私たちのできることを皆で考え行なっています。それらは皆様から寄せられた好意に対するお礼状、つまり何がどこで使われ、どうなったという報告書書きや寄せられた古着の修理、海外定住の決った難民への衣料の配布、そしてキャンプでささやかに作っているハンディクラフトを皆様に紹介し、買っただいて難民の自活への一助とならんとしています。

その活動をしていながら、とても辛いことがあります。それはJ.V.Cに寄せられた古着ですが、大変な手続をへて、タイ政府に無理を集ね重ねて引き取った梱包を開けるとどうでしょう。古着とも云えない油やよごれがべっとりと着いているもの、ボタンやファスナ

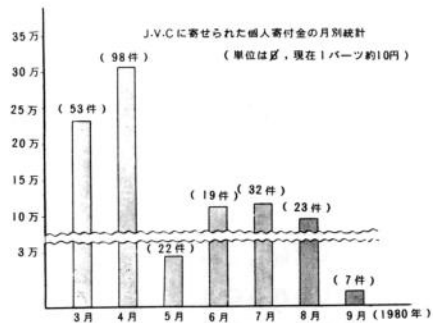
一をわざわざちぎってあるもの、極めて流行性の強いミニスカート、ゴムのバカになったパンツ等々、出てくることがまあります。しかし送料をかけて、手続をへて、何人もの人々の協力を得て、届いた物が、修理を要し、もしくは洗濯を要し、それでもなおかつ絶対に使えないものがあるというのはいかがでしょうか。せめて日本を送り出すとき、誰かが見て、難民にあった使えるものだけを選んで送って戴くわけにはいかないものでしょうか。大きな船で海を渡り、無税で受け取るために、タイ政府、各国大使館等をわずらわせ、トラック輸送に高いお金を使って、やっと手にした衣料がほとんど使えそうもないということは、どこかまちがっているに違いありません。日本を送り出す時、ちょっと選別して下さい。とても地味な仕事ですが、どうぞ私たちの声が届きますようお願いしております。



Nov. 23 1980

タイの王子と握手を交す浄土真宗本願寺御門主

難民のためにと、タイ政府とJVC宛に合わせて五千万円の寄付をしてくださいました。(現地の新聞より)



会計報告 10/18~11/17

東京銀行 (単位はダ 現在1ダは約10円)

収	入	支	出
前月残	85,160.53	事業費	0
収入	2,246,912.06	事務経費	0
計	2,332,072.59	計	0

差引残高 2,332,072.59

三井銀行

収	入	支	出
前月残	2,426,523.62	事業費	278,182.50
収入	279,070.22	事務経費	125,701.00
		助ける会給料	27,143.06
		その他	2,000.00
計	2,705,593.89	計	433,026.56

差引残高 2,272,567.28

○事業費内訳

アランヤプラテート	活動費	32,635
ウボン	ハンディクラフト	2,200
ウボン	活動費	7,575.50
ソクラー	排水溝その他	139,301
パナニコム	活動費その他	20,900
クロントゥーイ	活動費	5,000
クロントゥーイ	先生給料	2,400
ノンカーイ	活動費	3,900
ノンカーイ	English everyday	2,000
東京リエゾンオフィス	活動費	18,555
BKKボランティアホーム	設備、その他	3,717
J.V.C事務所		20,000
その他	豚、にわとり	20,000

○今月の寄付, 送金者

広沢衆子

南平病院有志

山辺中学

栗野

清明学園

インドシナ難民を助ける会

蓮見茂行

神奈川県国際交流協会

天理教

小野了代

カンボジア救援センター

Miss Ratana Sangehate

○今月の寄贈品目, 寄贈者

衣類 小林玲子

Casa Aoyama

江阪俊子

フリスビー

Hill Crest

山本康夫

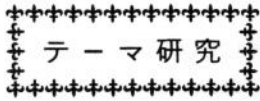
竹嶋節子

日本フリスビーディスク協会

あなたの善意の送り先

J.V.C Tokyo Liaison Office 銀行口座

三井銀行渋谷支店 口座番号 4326579



日本の中の「難民」たち

連載第1回

水野孝昭

●はじめに

日本にも「難民キャンプ」や「トランジットセンター」がある。こう聞いたら驚く人が多いのではないだろうか。

日本全国にある日赤やカリタス・ジャパン等の一時滞在難民収容施設は、ソクラーのベトナムボートピープルキャンプと同じ性格を持ち、鎌倉の雪の下カトリック教会が管理している冥想の家は、バンコクのランシットと同じく、第三国への出国が決まった人のためのトランジットセンターである。

タイにいる難民の状況については多少の知識はあっても、日本国内の状況に関してはほとんど何も知らない人が多い。恥ずかしい話だが、JVCを通じてタイでボランティア活動を経験してきた私もまたそうした1人だった。

勿論、インドシナの情勢に注目し、タイにおけるJVCの活動を国内からも支援していくことが重要であることは言うまでもない。しかしそれと同時に他ならぬ我々の足元、日本の国内に一体どんな「難民問題」が起きているのか、我々にとってこの問題もまた避けては通れない筈だ。日本国内の難民問題は必ずや、我々自身ののびききならない「日本問題」を浮き彫りにするであろうから。

そこで、日本の中の「難民」たちの問題を調べ、かつ考えてみようと思う。彼らはどういうルートで日本に辿り着き、どういう資格で在留し、どうやって生計を立てているのか。彼らの将来は一体どうなるのか。こうした問題に目をつぶったままでは、「人道的援助」を口にすることはできない。

☆ ☆ ☆

日本の中の「難民」たちは大海に垂らされた一雫のような、圧倒的な少数グループだ。自ら「単一言語単一民族による特殊な同質社会」と規定して、決してそれを変えようとしな一億一千万人に囲まれて彼らは生きていかねばならない。

その社会がどこまで少数者の権利を尊重し、多数者と平等に扱えるかが、その社会の民主主義の質を測定する1つの重要なメルクマールなのだから、「西側の一員」として「アジア唯一の発達した自由主義国」を任ずる日本にとって「難民問題」はまさにリトマス試験紙の役割を果たすだろう。

そして、こうした観点から日本の中の「難民主義」を捉え直してみる時、インドシナ難民のみならず65

万にのぼる在日朝鮮人、ひいては日本人自身の問題にぶつからざるを得なくなり、その気の遠くなるような根の深さに愕然とすることだろう。

難民のために何億もの募金が集まる一方で、難民収容施設の建設には反対運動が相次いだことをどう考えるのか。

海の向うの遠い存在でしかなかった難民が、自分達の生活に入り込んできた時、私達はどんな態度で彼らを迎えるのだろうか。

タイで活躍した500人以上の人々が、各々の領域でこうした「難民」たちと自分自身との関わり合いを考え直す時、日本の中の「難民問題」は、その重い足取りを一步進めることになるのかもしれない。

そのきっかけになることを願い、日本の中の「難民」たちの状況について概観する。

●その種類と実数

現在日本に在住しているインドシナ三国の最も広い意味での「難民」（定義に捉われず、実質的に本国の政府の保護を受けることが不可能か、その意思の無い者）には、以下の4つのカテゴリーがある。

①75年のインドシナ三国の政変以前から、留学生研修生等の資格で日本に存在していた人々、742名。

②一時滞在難民、いわゆるベトナムボートピープル。ベトナムから舟で脱出し、南シナ海を漂流中に通りがかった船に救助され、日本に到着、上陸を許可された人々。75年以来総計4,020名。そのうち第三国（主としてアメリカ）への出国者、日本への定住希望者、死亡者を除いて、現在数1,646名。

③定住難民。昭和53年4月の「ベトナム難民の定住許可について」の閣議了解、同54年4月の「インドシナ難民の定住対策について」同7月および55年6月付閣議で緩和された定住許可条件を満たして日本に受け入れられた難民。458名。

④いわゆる「流民」エアピープルと呼ばれる人々。

インドシナ三国の政変前後にその国を逃れ、タイ、台湾等で旅券を入手。又は、政変以前から旧政権発行の旅券で日本に在留していたが、政変によってその旅券が失効。改めてタイ・台湾等で旅券を入手し、観光の名目で日本に入国。認められた在留期間を超過して日本に在留している人々。

これらの人々は「不法在留者」となり、入管・警察に見つかると逮捕されてしまう。そのため潜行生活をしているので正確な数はつかめない。約500名

という。逮捕後は、家族もいなければ、生活の基盤もない、パスポートの発行国へ追われることもある。たまたま正規のパスポートを所持して入国したが為に、難民と認められないのだ。

日本自らがつくり出している悲惨な「難民」と言えよう。

(上記の数字は外務省アジア難民対策室資料 80-53, 「流民-悲しみはメコンに流して」による。)

国内難民施設訪問記

大和定住促進センター

水 野 孝 昭

小田急線の南林間駅から徒歩20分。林に囲まれたプレハブ建築が大和定住促進センターである。このセンターは79年12月発足した姫路センターに続いて、今年2月に政府の委託を受け、インドシナ難民の日本定住促進を進めている財団法人、アジア福祉教育財団難民事業本部によって設立された。

11月22日現在でベトナム人13世帯23人、ラオス人17世帯40人、カンブチア人10世帯55人の合計118人が入居。定員のほぼ8割にのぼる。そのうち16才以上の大人が73人、それ以下の子供は45人である。

内藤健三所長は以前国連の専門職員であり、かつてタイで「在タイ日本人社会福祉クラブ」を結成。現地の篤志家ピエラ・ベジャブルさんと協力して孤児の救済にあたった経験を持つ。「日本人は外国人を受け入れないと言われてきたが、昨年あたりからムードが変わってきた。難民の受け入れということとはとても難しい問題で、政府だけではどうにもならない。人々の理解と協力が無くては。」と語り、民間のボランティアとも協力して、センターの運営にあたっていく方針という。

ボランティアの仕事としては、各地から送られてくる荷物の整理、古着の仕分、服の着方を教えること。何しろ難民達にとっては冬物の衣類は初めて見るものばかりなのだ。若い夫婦が多いので子供が幼く、両親が授業を受けている最中の子守も重要な仕事。火事等の不測の事態に備え、毎週土日と泊りこんでいるボランティアもいる。

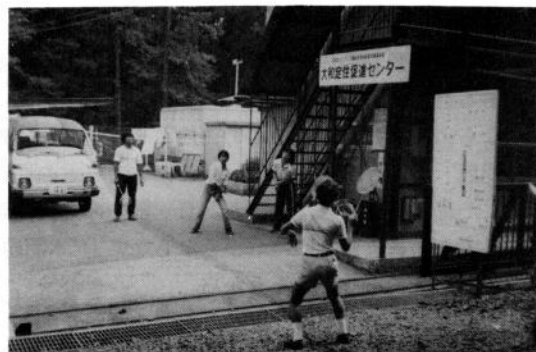
地元との協力関係についても、既に6回にわたって地元協議会を開き、この地区の強力な自治会の支援を固め、近隣の主婦が交替で子守等の奉仕を続けている。来訪者名簿にもセンターの向いの南林間小学校をはじめ、周囲の学校からの訪問者の名前が目立つ。その南林間小学校では、体育館を定住センタ

ーチームと地元のママさんバレーチームとのバレーボール試合の為に開放している。センターのチームはなかなか強く、地元のナンバーワンチームには惜敗したものの、見事にナンバーツーチームを破った。

今月の初めには海外青年協力隊OBがバスをチャーターして東京へ招待。整髪ボランティアをしてくれる人もいる。

センターには訪問者がひっきりなし。私が訪れていた時にも、ボランティア数名に中学生、高校生などの参観者が続く。内藤所長は応待にてんてこまいだ。

日本への定住が決まった受け入れ難民のほとんどは日本に着いたら、まずこのセンターで朝7:00起床、夜23:30(冬期は22:00)就寝の規則正しい生活を送り、3ヶ月間国際日本語普及協会の専門教師について、みっちり日本語を勉強する。同時に日本の生活習慣に適応するための生活指導も行なわれる。



大和定住促進センター

1日6時間、週に33時間の授業は、勉強になれた子供はともかく、年配の方にはかなり厳しいらしい。

アルバイト、内職は禁止されている代りに、センター入所期間中の難民は生活資金として、大人1日900円、子供500円の支給を受ける。

3ヶ月の日本語教育の後、就職のあっせんを受けるが、まだ就職が難しいという場合には半年間企業に雇用予約をしてもらい、職場適応訓練を受けるか、センターから公共職業訓練施設に通う。

センター退所の時には大人10万7千円、子供5万3千5百円の定住手当を受け取る。

学習棟に2つの住居棟と食堂の4棟。入居室は全部で28、教室は9つ。中庭にはささやかながら遊園施設、食堂にはテレビ2台にステレオ、オルガン。

入居者の人達はどのような道をたどって祖国から日本にたどり着き、日本での生活をどう感じているの

だろうか。食堂で何人かの人達とお話を伺った。

スカシューム・ビフェットさん(25)、ブーランさん(21)夫妻は10月28日に来日したばかり。しかし日本語をいくらか解するのは、ノンカイの日本語学校の成果だろうか。

ビフェットさんの祖父は伊藤真一さんという日本人だという。以前は夫妻ともビエンチャンに住んでいて、80年1月に結婚。その後タイへの脱出を決意したが、舟でノンカイへ渡るには1人2,000から3,000 バーツもかかるので一緒に出国することはできず、今年2月にまずビフェットさんが、次いで4月にブーランさんがノンカイへわたった。

「日本はどうですか?」「寒いです。」南国出身の彼らは日本の寒さに驚きとまどう。それでも奥さんは白いブラウスを清楚に着こなしていた。

以前、水道会社に勤務していたビフェットさんだが、将来の計画は未だ具体的には無い。

ボンサワン・ブラコンさん(25)、今年の2月25日にノンカイへ脱出。5月20日にセンターに入所。ラオスにいた頃はトラックの運転手だった。

3ヶ月の日本語教育を終了し、今は毎日横浜職業訓練学校へ電車で通い、1日5時間の旋盤の訓練を受けている。来年3月にこの過程を終え、就職する予定。

「何故ラオスから逃げてきたのですか?」と問うと、達筆で次のように書いてくれた。「昔ラオスでは国民の生活がとっても幸せでしたが、1975年より後、共産党がラオスの執政権を取得した時から、共産党はラオスの執政権を取得した後で、その時から、国民の生活が段々苦しくなってます。私達は沢山の友達と家族は共産党の政権に逮捕されたり殺されました。」(原文のまま)

一家のうち2人の兄弟はフランスへ、もう2人はオーストラリアへ出国したが、母と妹はカンブチアへ中国語を勉強しに行って「食糧難」で死亡。電気商を営んでいた兄は76年、理由も解らないまま突然逮捕され、北の方へ連れ去られ行方不明だと言う。

「ここの生活はどうか?」「とてもいいです。」「日本の料理は?」「とてもおいしい。」「フランスやオーストラリアにお兄さんがいるのに、どうして1人だけ日本に来たのですか?」「日本が好きです。」

終始明るく応待してくれたボワンサンさんだが、「お兄さんに会いたいですか?」と尋ねた時だけは「はい。」と寂しそうな表情が浮かんだ。

夕食時になり、皆食堂に集まってくる。ウボンキャンプから来日したばかりのアノン・ナタンコップ



日本語を習う難民たち

さん(28)もナムちゃん(1さい)の手を引いて現れた。72年から77年まで慶応看護学校へ勉強に来たことがあるので日本語は問題無い。ウボンでは通訳として活躍。御世話になった人も多いはずだ。

「将来はまた看護婦をやりたいです。」御主人はメコン河を渡って逃げる途中、銃撃されてなくなった。今は母1人、子1人。

一見落ち着いていて、最も恵まれた環境に置かれているはずのこのセンターの人々も、他人には想像もつかないような過去の痕跡を引きずりながら新しい生活に立ち向かっているのだ。

センターを退所して就職した人は52人。就職先は男性は自動車部品加工業、研磨業等のメーカー、女性美容院、スーパーマーケット等。中には「友達ができず寂しい。」と面会にやって来たり、「ちっともお金がたまらない。」と不平をこぼしに来たりする人もいるという。不完全な日本語を補おうと夜間中学に通って勉強を続けようとしている人もいるが、学費が半年で15万円もするのが悩みだ。

彼らの本当の生活は、このセンターを出た時から始まる。

私のボランティアを ささえているもの

大塚 雅也

私が、難民問題に取り組むようになったのは、大学で昨年度、ある外人講師の授業をとっていたことに端を発するが、ボランティアというもの、そのきっかけだけで長続きさせるのは難しいことだと思う。ボランティアとは、その活動を進めて行く上において、それを持続させ、さらに高めていくエネルギーを得る機会に何度か出会いながら続いていくものではないかと私は考える。皆さんの場合はどうだろうか。

あれは昨年末の22日、まだ結成されて間もない「インドシナ難民を助ける会」の活動に加わっていた私は、他の学生たち十数名と共に、土曜の昼下がりに、銀座、数寄

屋橋交差点で街頭募金に声をからしていた。当時のマスコミは、競って難民の惨状を取り上げていたから、全般的に往来の人々の反応はまずまずだったが、その中に私達の出していた立て看板を不審そうに見つめる50才前後のご婦人がいた。この人は私に歩み寄り「あなた方は、どういう団体ですか」と尋ねてきた。私は配っていたビラ一枚を渡し、私達の会・その活動内容・そして募金の使途について説明した。

すると、このご婦人は暫く考えたのち「あなたを信じます。ここに20万円ありますので、これを難

民の為に使って下さい。」とハンドバッグから白い封筒を私に差し出した。私は一瞬ためらったが、それを受け取り、その厚さに20万円という額の大きさを感ぜながら仲間の持つ募金箱に入れた。私達がお礼を言うと、そのご婦人は番号を渡し雑踏の中に消えていった。私はそれを茫然と見守りながら、額の大きさに驚いてもいたが、なにより信じてもらえたことの喜びと、お金を託されたことに対する責任の大きさをズシーンと強く感じていた。この人との出会いが私のボランティアに対する気持ちを「付き合い」から「本気」にさせたのだった。

この春、私は「助ける会」の第一陣として6週間、現地タイでの救援活動を行ってきた。そして現在は「助ける会」での活動と共に、今の組織で、これから現地に赴く人のためのオリエンテーション等の活動をやっている。それらの活動がうまく行かないとき「もう辞めよう」と思うことがままあるのだが、そんな時あのご婦人の「あなたを信じます」という言葉を思い出しては自分を励ましている。私にとっての大きな支えである。

寄稿 投書

※広く皆さんの積極的な
投稿を求めています。

800字前後

送り先

〒151 東京都渋谷区代々木神園

町3-1 OMYC内

JYVA気付

JVC Tokyo Liaison
Office 編集部

TEL 03-460-3994

月、木、土 PM 5~11

▼8.5 チャリティーコンサート



過去の失敗を振り返って

青木 一郎

6月7日、JVC夏期プロジェクト実行委員会が初めて主催したチャリティーコンサートが行なわれた。当日は歌手、石田桃子さんの全面的な協力があったにもかかわらず、一般入場者は数える程であった。変わって8月5日。この日、中山ラビさん及び前回の石田桃子さん率いるバンド、コズミッ

クサンによるチャリティーコンサートを開催するも、やはり客が少なく、ついにチャリティーコンサートで赤字を出すという前代未聞の大失敗をやらかしてしまった。続く難民の子供による絵画展が成功を収めたのは、せめてもの救いである。それにしてもこのコンサートの惨々な結果の原因は何だろうか。

技術的な事も含めて、細かい事を考えれば反省はいくつも出てくると思うし、実際随分なされてきたが、私はここで当時の自分の気持ちをもう一度振り返ってみたいと思う。まず徹底的に反省しなければいけないのは、チャリティーコンサートは黒字を出さなければ何の意味もないという認識が欠けていた事だ。そんな馬鹿な、と思われるかもしれないが、実際に自分が当時コンサートで金を捻出すんだという強い信念を持ってい

たかと聞かれればウーンと唸ってしまうのである。日々雑事に追われていくうちに、単にプログラムを消化するという事で頭が一杯になってしまっていた。

そして、もっと根本的な事かもしれないと思うのは、ボランティア活動は、ボランティアであるが故に活動と社会との継がりにおいて、厳しく自分達を律しなくてはいけないという事だ。8月5日のコンサートは聖心マリアンホールで行なったものだが、その際にホール関係者やシスター達にかけた

迷惑のことを考えると、コンサート云々の前に自分のボランティアとしての自覚を疑わざるを得ないのである。ボランティアの中に少しでも甘えがあれば、それはボランティア活動そのものを否定する事に通じる。

とにかく悪夢のようなコンサートは終わり、夏期プロジェクトも終了した今日、かつての実行委員会はJVC OB会とその名を改め、活動を続けている。私のこの反省が、他のメンバーの今後の活動に少しでも役立ってくれば幸いだ。



描いた絵を掲げる子供たち

衛生PRポスター



タイ農村部には、会だにマラリアの原因が蚊であることを信じていない人々が大半います。このポスターは佐藤ボランティアの提案により作成されたものです。

群馬県佐和郡東村にある東小学校3年2組の子供達が、道德の時間に先生からカンボジア難民の子供達のことを聞き、募金をして助けてあげようという話が児童達からもちあがり、お小遣いを集めて

上智大学にことづけられた。次に紹介するのは、その募金と共にJVCに届けられた担任の倉林先生と43人の児童達の心暖まる手紙の中の一通である。

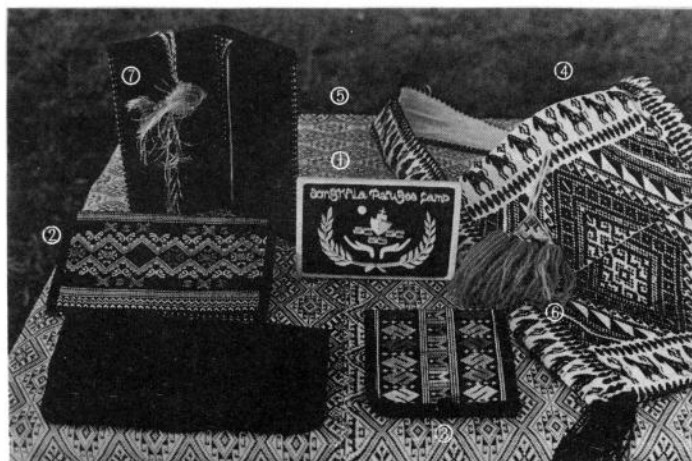
カンボジアの人たちへ

みんな、くろうだけど、がんばってにげてね。カンボジアからにげればたすけてやる人がいるからね。そしてば金が、くるよ。げんきにまってるね。つかれたら、みんながもってる。その塩をなめて、やすむときは、人目につかないところで、やすみな。タイの国へきたら、もうあんしんだよ。へんなことをみても、ぜったいに、くじけないでね。このへんじをぜった

せきやみゆき

いにわすれないでね。そしてともだちになってください。おねがいします。どなたでも、このおてがみをみたら、おともだちになってください。そしてわたしたちにも、おてがみを、ください。もし、かみや、えんぴつや、けしごむがなかったら、だれかもってるひとに、かしてもらってください。

ハンディクラフト紹介



J.V.Cでは、難民救援活動の一環として、ソクラー、ウボン等のキャンプで仮生活している難民たちに手工業品の製作を依頼し、その販売を行なっています。

例えば、ソクラーキャンプでは、ポートピーブルの象徴である船のデザインを施した「桶」、ウボンキャンプでは、ラオスの民族衣装の布地で作った「財布」など、どれも難民たちの自由への思いが込められた品々です。

これらの手工芸品を通じて、日本の皆様に難民たちの心を理解していただき、難民問題に関心を持っていただければ幸いです。

尚、販売価格の20%は、寄附金として難民救援に使用させていただきます。

写真番号	品名	大きさ	製作場所	販売価格 (円)
1.	桶	ワールド	ソクラー・キャンプ	960
		大		720
		中		600
		小		480
2,3	財布	大	ウボン・キャンプ	1200
		中		840
		小		840
4	ショルダーバック	大	ウボン・キャンプ	1800
5	テーブルクロス	大	ウボン・キャンプ	1800
6	メオ族のお守り	小	ランジット・トラジジット・センター	1200
7	プラスナップ1品		カオイダシ・キャンプ	240

会員制についてのお知らせ

J.V.C Tokyo Liaison Office では、インドシナ難民救援活動の輪を広げるため会員を募っています。J.V.C会員には、J.V.Cの趣旨に賛同する方なら誰でも加入することができます。

会員の方々には毎月機関誌「Trial & Error」を送付すると共に、講演会・写真展等のお知らせを致します。

J.V.C会員の種別と会費は次の通りです。

賛助会員（団体・法人） 年間1口 10,000 円

一般会員（個人） 年間1口 3,000 円

申し込み方法

郵便振替にて。口座番号

東京3-54186

〒151 東京都渋谷区代々木神園町3-1

OMYC内JYVA気付

J.V.C Tokyo Liaison Office

春期プロジェクトのお知らせ

タイ政府からの要請に基づき、現在東北タイブリラム県の13ヶ村に簡単な遊園地を造設するプロジェクトの準備を進めています。

このプロジェクトは、2月上旬より開始され、日本からのボランティアと村の人たちが一緒に作業するものです。

募集人員約80名

活動期間約1ヶ月（尚、1ヶ月未満しか活動できない方も考慮致します。）

詳細は次号にて

毎月15日発行

発行人 税田 芳三

編集人 河井 淳一

発行所 J.V.C Tokyo Liaison Office

〒151 東京都渋谷区

代々木神園町3-1

OMYC内JYVA気付

表紙デザイン 和田 純

表紙写真 中山 幹彦

印刷所 ゆたかプリント

定価1部150円